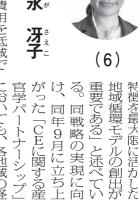
資源循環ネットワーク 彌永



「環境県」へ んの処理費用を低減で においても、各地域の経 **冟学パートナーシップ」**

発生する副産物を成形加

して作られた煉瓦やブ ックを見かけることが

地

資源循環実現へ

、高まる期待

特殊な技術やノウハウを

源循環が、今後さらに重

ある。黒く重厚な外観は、

外にものどかな島の風

に溶け込んでおり、島

と、「鍰(からみ)」と呼

と発展させる取り組みと

き、環境改善効果もあり、

済圏の特徴に応じた「地

域循環モデル」創出が主

かつ、得られた売電収入

して、うどん発電を始め

銅製錬の工程で

直島内を散策している

ん県」を、

た。さぬきうどんはコシ は地方財政を潤す。 な検討事項に定められて ||産業が果たすべき役割 有する地域へ「広域」 運

が命のため、ゆでた後30 経済産業省は、202 おり、複数の自治体で、 搬する方が望ましい。さ 要視されることは間違い

分以上経過した麺は廃棄 3年3月に策定した一成 実現可能性調査やロード らに、国の資源戦略に関 わが国の静脈産業は、

利用する試みは、他地域

できる。地場産業から出 に排出物を地域内で還元

される。廃棄されたうど

が銅産業と共に発展して こた歴史を感じることが

でも多くの事例がある。

直島を有する 香川県はう

こんが有名だが、「うど(う。うどん店は廃棄うど)ては、地域の自立を促し

スを利用して発電を行

入れ、発生したメタンガ んを巨大な発酵タンクへ

キュラーエコノミー (C 済戦略」の中で、「サー 長志向型の資源自立経

れている。

マップの策定等が進めら

わるレアメタルなどの調

地方自治体の許認可を受

E)を実現するに当たっ

は、循環資源の性質や経

| 資源を循環させる範囲

があるのだ。

うどん発電の事例は、

社会的命題となる中、動

社会的活動への貢献とい り地域に根付いた地道な

されている。

的に参画することが期待 支える取り組みにも積極 用など、持続的な発展を 内未利用資源の積極的活

行ってきた。CE実現が

資源循環を考える上で、

対象エリアを広げる必要

に密着した事業展開を けながら、本質的に地域

れからの静脈産業は、よ 割は大きい。加えて、こ 静脈産業が果たすべ

達は、「海外」にまで集荷

域単位では技術的に処理 負荷も小さい。一方、金 い「地域」内での循環が が困難な場合や、処理コ なる。地域固有のバイオ 属や処理困難物など、地 最も経済的であり、環境 市町村単位等の比較的狭 切な地理的スケールが異 済合理性等によって、適 ストが見合わないときは、 マス資源や食品残渣等は、 る。人口減少が進み過疎 などの特徴を生かした資 地域活性化の観点から 化が進む日本において 性化効果を発揮して なく、ユニークな経済活 境効果を生み出すだけで 環を実現することで、環 切なスケールであり、地 地域」内での循環が適 地域産業や固有文化

静脈連携を前提とした地 域循環モデルを実現させ るうえで、地元密着型の う観点でも、地元におけ 障害者雇用の拡充、地域 るリユース事業の推進や